

---

# ファンタジーアース～永遠神剣を持つ者～

隣の番人さん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ファンタジーアース〜永遠神剣を持つ者〜

### 【Nコード】

N7532L

### 【作者名】

隣の番人さん

### 【あらすじ】

大学受験を失敗した橘望<sup>たちばなのぞむ</sup>。受験を失敗した手前、家に帰ることができず、時間を潰すため昔見つけた秘密基地へと向かうことに。木漏れ日がさす秘密基地で眠りについた望だが・・・この物語はファンタジーアース・ゼロと永遠神剣シリーズのコラボ？作品となります。原作レイプ、流血描写、強設定があるかもしれませんがご注意ください。

## 語り（前書き）

都合により、本文と後書きが一緒になっております。

## 語り

求めよ

汝が望む未来を

戒めよ

驕り高ぶる力を

流転せよ

結晶が作り出す物語を

クリスタルが紡ぐ悠久の中で

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

文字数が足りなくなってしまうので、後書きをここに書かせていただきます。

祝！？初小説！というわけで、気ままにがんばって書いていきたいと思えます。

おい！作者！ここ誤字してるぞ！  
や

おい！作者！ここ脱字してるぞ！  
などがありましたらコメントまでお願いいたします。

でわ、貴方がこの小説で楽しい時間を過ごせることを祈りつつ失礼

します。

## プロローグ 始まりの前の物語

ある一家が夕食を囲みながらニュースを見ていた。

テレビにはどこかの神社が崩れ落ち、一人の少年が巻き込まれた可能性があると報道している。

そう、可能性である。

どうやら崩れた建物の中から少年の荷物は見つかったのだが少年の遺体だけは見つからず、行方も捜しているのだがこちらでも一向に進展はなく、誘拐の可能性も出ているとキャスターは述べていた。

### 【プロローグ 始まりの前の物語】

「あー・・・やばい・・・殺される・・・」

空には雲ひとつない青空が広がり、まだ肌寒いとはいえ暦の上では立派な春である。

そんな中、ある大学の掲示板の前で立ち拉がれている少年がいた。

【「1190」たちいひな橋のぞむ望】。

そう記載された受験票を握り締め、かれこれ数十分間必死に掲示板と受験票の番号を見比べていたのだが、

それでも結局自分の番号を見つけないことができずに合格者の歓声の中ポツンと曇り空を背負っていた。

「はぁ・・・行く・・・」

身体に溜まった濁った空気を吐き出し、校門を抜ける。

現在の時刻は午後一時十五分。

昼食は済ませてあるので家に帰ることもできるのだが、不合格になった手前いづらいことこの上ない。

帰ったところで大学はどうするんだ、就職はどうするんだ、とつるさく言われるのがオチである。

「ゲーセンで気晴らしでも・・・うげ、128円・・・だと・・・？」

踏んだり蹴ったりとはこのことを言うのだろう、財布の中には数枚の小銭しかなかった。

ゲーセンへと向けていた足を止める。

「んー・・・む・・・」

財布を力任せに鞆にしまい込むと、その場で頭を抱える。

娯楽施設があまりないこの街では、若者が行くとなるとカラオケかゲーセンの二つなのだが、

数百円しかない貧乏人にはどちらも厳しい。

金を下ろせ？

下ろせる金があったら、今頃は銀行へと向かっているだろう。つまり財布の中が全財産。

不景気の風は俺の財布にも平等に吹いているらしい、困ったものだ。

「はぁ・・・仕方ない、アソコに行くか・・・」

止まっていた足を再び動かすと、ゲーセンとは真逆の方向へと進める。

それから歩くこと三十分弱。

市街のけたたましい雰囲気は消え、木漏れ日が地面を照らす静かな風景に変わっていた。

「ふう、やっとついたか」

蔵野坂神社。

ここが俺が目指していた場所だ。

神社と言っても今は人気は無く、住んでいる人間もいない。

詳しくは知らないが、嘗んでいた一家が消えたとかで立ち入り禁止になっているのだが、

小学生の時に見つけた俺には秘密基地のようなもので、以来隠れ家代わりにしている場所だ。

「ここにくるのも久しぶりだな・・・中一の時一回きて以来だから・・・結構な期間ほったらかしか」

無造作に伸びきった雑草を踏み均し、道を作りながら奥へと進むと朽ちた建物が見えてきた。



建物に近づき辺りを見渡す、扉は折れて地面に転がり、壁は腐って崩れて野晒しになっているところが殆どだった。

だが、屋根だけは今もなお雨から建物を守っているようで、中の方は思っていたよりも酷い有り様にはなっていないかった。

「お、前にハマった漫画ここに置いてたのか・グニャグニャになつてら」

ギシギシと腐った床を避けながら歩みを進め、地面に転がっている漫画や雑誌を見つげながら思い出に浸る。

あのころは受験などもなくて毎日の遊びが冒険のようだった。

この場所を見つけてからは、大抵の日は友達数人とここで過ごし鬼ごっこや隠れんぼをして遊んだ。

小学の高学年の頃はさすがに鬼ごっこなどはしなかったが、代わりに携帯ゲームを持ち寄って遊んでいた。

子供のころの青春は、ここで過ごしたと言っても過言ではないだろう。

ふと、思い出にふけっていると床に見たことも無いガラスのような物が落ちていた。

手にとって見るとガラスには不自然で、光を通すと綺麗な青光りをしてどちらかというと言ったほうがしっくりくる。

「こんなの持ってたっけ・・・？小学の時のだれかが来て置いていたのか？」

それならそれでいいのだが、忘れ物となると探している可能性もある。

幸い家に帰れば連絡はつくので、ポケットにしまい床に横になる。

「ふあゝ．．．っあー．．．。今二時過ぎだから三時間くらいは寝れるか．．．」

目を閉じると太陽のちょうどいい温もりにつつまれすぐに睡魔が訪れ、その数分後には夢の中に落ちることができた。

そう、朽ちた建物の中で。

その次の日の夜、ある一家の夕食では一人の少年が失踪したというニュースが流れていた。

## プロローグ 始まりの前の物語（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございます。

今回はファンタジーアース・ゼロ（FEZ）や永遠神剣要素はありません。

次からがんばっていきます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7532/>

---

ファンタジーアース～永遠神剣を持つ者～

2011年2月2日17時58分発行